

## REFORPAC 25: 横田の運用に向け、第374契約中隊と経理部 準備体制を整える

*REFORPAC 25: 374 CONS, CPTS setting the theater for Yokota operations*

July 10, 2025

By Senior Airman Samantha White  
374th Airlift Wing Public Affairs

6月18日から7月8日にかけて、第374契約中隊の空兵たちは横田基地で、演習「REFORPAC 25 (Resolute Force Pacific)」に向けた機材の調整と調達を行った。

同中隊は、演習に参加する要員のため、簡易ベッドやテント、夜間活動を支援する臨時シャトルバスなど、多岐にわたる物品の契約手続きに取り組んだ。

「30日内でこれだけ準備ができたのは、契約中隊の力を証明するものであり、我々が横田の拠点としての能力を最大限に引き出すことができることを示している」と第374契約中隊契約担当官ニコラス・マグラス技能軍曹は語った。

短期間での要請にもかかわらず、契約中隊と経理部は連携し、REFORPAC 25を支援する派遣要員のための320床の簡易ベッドを迅速に調達した。こうした運用は、通常は有事の際にのみ行われるものである。

経理部副支担当官タン・グエン軍曹は、「今回の大規模演習では、情報伝達の遅延も想定して準備を進めた。それだからこそ、状況に応じて柔軟に対応することができた。この迅速な対応は我々の能力を試す機会となり、必要時にすぐに対応できるということを示した」と話した。

REFORPAC 25は、7月10日から8月8日にかけて、太平洋地域の複数の拠点で実施される。演習には300機以上の航空機が参加し、米空軍に加え同盟国・パートナー国および他の軍種の隊員も参加する予定である。本演習は、現実的かつ困難な状況を想定した対処能力の評価の場となり、各国の隊員が共通の課題に対応する力を高めることを目的としている。

